

▶ 第10章

朝鮮半島の非核化と日本の貢献

——平和発展の「夢と希望」をどう与えるか

環日本海経済研究所 調査研究部主任研究員

三村 光弘

【ポイント】

- ▶ 北朝鮮にいま必要なのは、非核化後の自国が国際社会にどのように受け入れられるのかについての楽観的な見通しである。当事者である米国はもとより、周辺国である中国、ロシア、モンゴル、韓国とともに、日本が積極的な役割を果たすことが北東アジアの平和と安定につながる。
- ▶ 北朝鮮の非核化のあり得るシナリオとしては、米国との信頼関係構築に成功し、比較的速い非核化のプロセスを維持し、米国を中心とした既存の世界秩序の中での足場を築くものと、米国との信頼関係を築けず、米国の力が相対的に落ちるのを待ち、中ロを中心としたユーラシア大陸における新たな国際秩序の中で、中ロを後見人として徐々に非核化を進めていくものが想定される。
- ▶ 日本は、北朝鮮の非核化プロセスの進行を前提として、懸案問題の解決から、日朝国交正常化交渉へとつなぎ、北朝鮮が非核化を進め、国際社会に受け入れられた後、経済発展を成し遂げるために必要な知識や技術に対するソフト面での支援を主とした、経済協力を実施することを宣言することにより、北朝鮮の非核化への意思を確固たるものにするために貢献すべきである。



注目データ

北朝鮮の核・ミサイル問題をめぐる主要国の立場

